

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「筆者の論の進め方をとらえよう / イースター島にはなぜ森林がないのか」 教材名「イースター島にはなぜ森林がないのか」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理する。思考・判断・表現では、筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明する。交流や試行の前後を比べ、論の進め方の関係図を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明している。（C(1)ア・C(1)ウ・C(2)ア）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、原因と結果など情報の関係を中心に学ぶ。筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明する活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ア・C(1)ウ・C(2)アに関係する学習である。成果は、論の進め方の関係図に示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、書かれた順をそのまま原因と結果にすることである。関係を示す語と根拠の内容を両方確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○原因と結果など情報の関係に関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す論の進め方の関係図の内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2～5 （本時は5時）	○筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明する。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○この根拠はどの結論を支えているかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	6	○論の進め方の関係図を仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (5/6)

(1) 本時の目標

筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明することができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「この根拠はどの結論を支えているか」 【めあて】原因と結果など情報の関係について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・順に起きたことと原因であることは違う。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。書かれた順をそのまま原因と結果にする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明する。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「この根拠はどの結論を支えているか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・順に起きたことと原因であることは違う。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	関係を示す語と根拠の内容を両方確かめる。知識・技能では、原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明している。(C(1)ア・C(1)ウ・C(2)ア) (本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 論の進め方の関係図を確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】文章の中心と、それを説明する事柄との関係を確かめると、内容や伝え方の工夫を説明できる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。この根拠はどの結論を支えているかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (論の進め方の関係図と実際の言葉の使用) ・態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、筆者の問いと根拠の関係を整理し、論の進め方を説明している姿である。本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明を基に判断する。書かれた順をそのまま原因と結果にする場合は、関係を示す語と根拠の内容を両方確かめる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には原因と結果など情報の関係を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に論の進め方の関係図で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

